

## 「外国人のもてなしと共生のための情報伝達」をめざして、 各種社会システムの実証運用を進めています

近畿総合通信局では、本年1月31日に「もてなしと共生のための情報対策協議会」を立ち上げました。3月4日から第1弾として、災害発生時に災害情報を外国語で伝えられるアプリのダウンロードをはじめめています。詳しくは→ [http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07\\_01001477.html](http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07_01001477.html)  
具体的な実証運用の準備を進めていますが、4月からは次の取組を進めてまいります。

### 【第2弾】大使館・領事館に被災地の自国民への連絡手段を無料開放

大使館・領事館が、海外の報道ニュースを無料視聴できるアプリ“Portable News”をダウンロードしている自国民に対して、各国の大使館・領事館がメッセージをプッシュ通知する実証を開始します（当初はAndroid版のみ）。詳しくは→ [http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07\\_01001483.html](http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07_01001483.html)

### 【第3弾】留学生に多言語で災害情報を伝えるトライアルを実施

「災害情報伝達クラウドプラットフォーム」（DICP）は、様々な多言語の情報を、外国人旅行者や外国人住民に届けるためのプラットフォームとして構築されており、本年3月から運用を開始しています。

このプラットフォームを利用して、学校がメッセージを発信するトライアルを開始します。主な内容は次のとおりです。

- 学校が自身の学生に限って情報を届けられるように、学校や学年等を特定して情報を伝達
- 学校が情報発信できないとき他の主体からの多言語の情報が学生に届くよう、大使館・領事館や地方自治体等と同じプラットフォーム上から情報を発信
- 学生間の共助のため、大学等の職員や学生をインフルエンサーとして選任し、災害発生時に備えた情報発信権限を付与 など 詳しくは→ [http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07\\_01001484.html](http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07_01001484.html)

#### 《参考記事》

「外国人への多言語災害情報伝達システムの実証運用を開始

－災害発生時に災害情報を外国語で伝えられるアプリのダウンロードをはじめました－

・ e-かわらばん 2019年3月13日 第266号 [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000606305.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000606305.pdf)

・ 近畿総合通信局報道発表（平成31年3月5日）[http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07\\_01001477.html](http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07_01001477.html)

## (株)ラジオ関西のAMラジオの難聴が解消されます

－兵庫県内で初めてのFM補完中継局に免許－



近畿総合通信局は、株式会社ラジオ関西のFM補完中継局2局（神戸放送局、姫路放送局）に対し、2019年3月18日付けで免許を付与しました。

このFM補完中継局により、神戸市内及び姫路市内並びに周辺部の都市化や地形が原因でAMラジオ放送が聴きづらい地域において、難聴地区の解消とともに音質が改善されます。

なお、このFM補完中継局は、AM放送と同一の番組を放送中継するもので「ワイドFM」と呼んでいます。この放送を聴くには90MHz以上の受信に対応しているFMラジオが必要となります。

← 左：近畿総合通信局 高橋史昭放送部長  
右：株式会社ラジオ関西 桃田武司代表取締役社長



総務省

### 「電波利用促進セミナー」を開催 - 2030年代に向けた電波利用の将来像について -

近畿総合通信局（局長：大橋 秀行）は、2019年3月14日、近畿情報通信協議会とともに、大阪市内で「電波利用促進セミナー」を開催しました。

本セミナーは、電波の有効利用について取り組んでいる研究者を講師として招き、「2030年代に目指すべき社会を実現するための次世代ワイヤレスシステム」をテーマに開催したもので、情報通信企業、研究機関等の関係者92名が参加しました。

セミナーの冒頭、近畿総合通信局の大橋局長が、「これからの無線の時代 新しい技術をどう風にして社会に活用し、問題解決に役立てていくかが今後は問われてくるし、新しい技術の推進力となって、この国の技術力を新しい段階に引っ張ってくれる。今日この会議を通じて、是非皆様方の支援を、若い研究者の方々に向けていただきたい。」と挨拶しました。



挨拶する大橋局長

続いての基調講演では、最初に奈良先端科学技術大学院大学の岡田実教授が「Beyond 5Gに望むこと」と題して、無線サービスの高度化・多様化により実現する自動運転、スマートホームやヘルスケアの将来展望、現時点の技術上の到達点について説明されました。

次に、神戸大学大学院の太田能教授が「これからの通信制御・サービスに望むこと」と題して、人の本当の「益」を増やすには「不便システム」が必要という考え方について、接続すべき無線アクセスポイントの通信制御の例を挙げて説明されました。



パネルディスカッションの様相

パネルディスカッションでは、パネリストの若手研究者7名が自身の研究分野について紹介した後、岡田教授、太田教授がコーディネーターとして、パネリストとともに、将来の電波利用とそれに伴う日常生活の変化などについて議論を行いました。

パネルディスカッション後半は、パネリストが会場の参加者からの様々な質問に応えながらすすめられ、活発な議論となりました。

#### 【コーディネーター】

奈良先端科学技術大学院大学 教授 岡田実氏、神戸大学大学院 教授 太田能氏

#### 【パネリスト】

大阪大学大学院 准教授 衣斐信介氏

大阪工業大学 講師 木原崇雄氏

大阪大学大学院 准教授 猿渡俊介氏

京都大学大学院 助教 水谷圭一氏

大阪工業大学 准教授 熊本和夫氏

京都大学大学院 助教 西尾理志氏

奈良先端科学技術大学院大学 准教授 東野武史氏